

二〇一七年度「研究科プロジェクト推進研究」成果報告書

伝統芸能の近代化とメディア環境

大阪市立大学大学院文学研究科 都市文化研究センター

資料紹介

明治から昭和初期の淡路座興行記録 —— 徳島の新聞記事より ——

久堀裕朗

本稿は明治から昭和初期の徳島の新聞から、淡路座（淡路の人形座）

の人形浄瑠璃興行に関する記事を抜粋し、収録したものである。但し、

ある期間の新聞記事を網羅的に調査して作成したのではなく、徳島市

史編さん室所蔵の人形浄瑠璃関係新聞記事スクラップ（徳島市資料台帳）

から、淡路座（一部阿波や、その他の座も含む）の興行に関する記事を

抜き出して作成したものである。徳島市史編さん室に感謝し上げる。

淡路座の興行記録について、筆者はこれまで『元木家記録』の淡路

座興行記録（『演劇研究会会報』第三十二号）、『淡島歴史』の淡路座

関連記事（同 第三十八号）、「徳島県立文書館寄託「酒井家文書」の

淡路座興行記録」（同 第四十一号）、『近世淡路座興行年表（稿）』（科

研費成果報告書、二〇一五）など、主として近世期の記録を収集・整理

してきた。淡路座の興行では都市の芝居小屋で版行されるような番付が

版行されないので、地方の農村部まで巡業していくその興行の実態がど

のようなものであったのか正確に把握することは難しい。その記録の乏

しさを少しでも補うべくこれまで資料の収集に努めてきたわけだが、そ

の乏しさは基本的に近代以降においても同様である。そこで断片的な記

録ということになるが、このような形で新聞記事の抜粋をまとめること

にした次第である。新聞記事の限られた情報ではあるが、座名・劇場・

演者名・上演時間・演目・観劇料などについて貴重な情報を得ることが

できる。

凡例

一、収録情報は「年月日」「新聞名（朝刊・夕刊の別）」「新聞記事の抜

粋」からなる。

一、漢字は原則として現代通行の字体に改めた。

一、改行を「/」によって示した。

一、資料不鮮明による難読文字は□で示した。

一、○△◇等の記号は原資料の通りであるが、○・●等の区別はせず、

すべて白抜き記号で表記した。

一、「年月日」「新聞名」は「徳島市資料台帳」記載の情報による。

明治二十七年（一八九四）四月二十八日

『徳島日日新聞』

○常盤座の操人形 中村久太夫一座の人形芝居の戯題は昨日より前狂言
敵討花筏岸柳島大序より敵討迄、中狂言源平布引滝四段目、附け物義士
銘々伝なり

明治二十八年（一八九五）四月十日

『徳島日日新聞』

○興行 愈々本日より柳馬場に於て改良人形芝居中村久太夫一座の興行あり又稲荷座に於て同日より日清戦争大幻灯会を開き競争場裡に決戦を試みんと両座は待ち居れり

明治二十九年（一八九六）二月二十日

『徳島日日新聞』

○芝居 登美座の上村源之丞一座の操人形はいよく昨日より開場、出物は「賤ヶ嶽七本鎗」附物「三十三間棟木由来」平太郎住家の場（錦太夫）、「乗掛合羽道中双六」沼津里の場（□太夫）等なり

明治二十九年（一八九六）四月一日

『徳島日日新聞』

○栄座 過日来より興行中の豊川福之丞一座の人形芝居は昨日より前狂言を「近江源氏先陣館」大序より大詰までと附ものを「娘景清日向島」等に差し替へたり

明治二十九年（一八九六）四月十四日

『徳島日日新聞』

○栄座豊川福之丞一座の操り人形芝居も本日より芸題替り其出物は「曾我物語富士の巻狩」大序より大詰まで（三段目巴太夫）附物「源平布引の滝」（長門太夫）「お俊伝兵衛」堀川の段（出羽太夫）等なるが何れも本日より三日間は特に毎日午前八時より開場するとの事なり

明治二十九年（一八九六）六月十日

『徳島日日新聞』

○栄座 二軒屋横土手栄座にては来る十二日より吉田伝二郎一座の操人形の興行あり太夫は市内南北白黒の寄合ひなり

明治三十年（一八九七）二月二十七日

『徳島日日新聞』

○操芝居 新栄町常磐座にては来る三月一日より吉田伝二郎一座の操人形の興行ある由

明治三十年（一八九七）九月十日

『徳島日日新聞』

○操人形 式軒屋横土手栄座にては本日より中村久太夫一座の操人形芝居を興行するよし

明治三十年（一八九七）十一月二十三日

『徳島日日新聞』

○操りに里の賑はふ小春かな 名東郡八万村大字下八万村字大野名にて来る二十四日豊年祝ひとして村太夫の連中にて一日間操人形の興行を為さむと昨今準備中、好天気ならむには定めて賑はん

明治三十年（一八九七）十二月十五日

『徳島日日新聞』

○常磐座の人形芝居 新栄町常盤座にては今春同座にて興行せし吉田伝二郎一座の操り人形芝居を明日より開場する由

明治三十年（一八九七）十二月二十一日

『徳島日日新聞』

新栄町常磐座の操人形吉田伝二郎一座は一昨日より開場昨初日よりは昼夜通しとして演じ居れり

明治三十一年（一八九八）一月十六日

『徳島日日新聞』

○浄瑠璃会 新栄町常磐座にては来る二十八日より豊澤町造が会主となり浄瑠璃会（人形入り）を催す由

明治三十一年（一八九八）二月三日

『徳島日日新聞』

○町造の浄瑠璃会 新栄町常磐座にて興行中の市川荒人一座は昨日限り打上げとなし本夜よりは兼て記載したる豊澤町造が会主となり豊川六之丞一座の操人形を入れ南北素黒人及び富街太棹連の浄瑠璃会を催す筈なるが木戸銭は無銭なり

明治三十一年（一八九八）二月十一日

『徳島日日新聞』

○操人形 今十一日午後二時より十二時まで安宅村字百間地にて操人形の興行あり

明治三十一年（一八九八）三月十三日

『徳島日日新聞』

○常磐座の操人形 同座は操人形の元祖上源之丞の一座にて節句芝居を興行する旨此間の紙上に記るしありしが座員は何れも乗込み居ればいよ

く明十四日より開場する由なるが座附太夫は例の上総太夫（出羽太夫は抜けたり）にして追抱としては山城太夫勤むるとぞ

明治三十一年（一八九八）三月二十二日

『徳島日日新聞』

○芝居だより 常盤座の操人形は一昨日より

明治三十一年（一八九八）三月二十四日

『徳島日日新聞』

又た勢見山下の明地にては過日新町橋際三菱席にて興行したる山本三之助一座の糸操り人形（浄瑠璃入り）等なり

明治三十一年（一八九八）三月二十四日

『徳島日日新聞』

○常磐座 上村源之丞一座にて狂言は昼の部「奥州秀衡」大序より大詰迄、附物「躰仇討」拾二段目（竹本山城太夫）夜の部「八陣守護の本城」大序より大詰迄、附物「宵庚申八百屋の献立」お千代半兵衛（山城太夫）等なり

明治三十一年（一八九八）四月九日

『徳島日日新聞』

○常磐座 同座にて興行中なりし上村源之丞一座の操り人形は一昨日限り千秋楽となし一座は麻植郡川島町へ乗込み一興行する由なり、又同座は近日より先年来りしことある西京役者嵐大五郎、嵐橋治郎一座が乗込み開場する筈にて既に当地の仕打は上洛して万事打合せ中なり

明治三十二年（一八九九）四月一日

『徳島日日新聞』

○広告

本家上村源之丞一座

○本太夫 豊竹浜太夫

△三味線 野澤吉太郎

○追抱 大坂初下り 豊竹此太夫

△三味線 同 豊澤浜右衛門

○副追抱 東京初下り 豊竹錦太夫

△三味線 花澤咲次

右ハ四月二日ヨリ晴天十三日間三好郡池田町ニ於テ興行引続キ同郡芝生

村ニ於テ晴天七日間興行仕候ニ付賑々敷御光来ノ程奉祈候

明治三十二年三月

請元 丸浦幸三郎

明治三十二年（一八九九）五月六日

『徳島日日新聞』

○常磐座の操人形 過日来二軒屋横土手栄座にて興行し居たる吉田伝次

郎一座の操人形は近日より又たく新栄町常磐座にて一興行するとの話
しあり

明治三十二年（一八九九）五月十八日

『徳島日日新聞』

○糸操り人形 二軒屋横土手栄座にては昨日より例の中村三之助一座の
糸操り人形の興行あり

明治三十二年（一八九九）六月八日

『徳島日日新聞』

○操り人形源之丞一座 新栄町常磐座にては目下興行中の新演劇同志団
一座を一両日内に打上げ其後へは大操人形上村源之丞一座が乗込み節句
芝居を興行する由

明治三十二年（一八九九）六月十三日

『徳島日日新聞』

○上村源之丞一座 新栄町常磐座の操り人形上村源之丞一座は明日より
開場するよし

明治三十三年（一九〇〇）五月三十一日

『徳島日日新聞』

○市村六之丞一座操人形 登美座にては市村六之丞一座の大操人形を興
行する筈にて本太夫豊竹卷太夫、追抱竹本春子太夫、三味線豊竹巴弥太
夫、豊澤新左衛門、豊澤仙左衛門等なるが本日が大人にて引続き初日を
興行との事

明治三十三年（一九〇〇）十二月十三日

『徳島毎日新聞』

○竹本国尾の浄瑠璃会 明後十五日より富田裏中の丁竹本国尾会主とな
り仲の丁歌舞伎座に於て勝浦郡の旭一座を雇ひ操人形を興行するよし

明治三十三年（一九〇〇）十二月十八日

『徳島毎日新聞』

○常磐座の操人形 上村源之丞一座の操人形は漸く一昨日当市に乗込み

来り昨日大入を出したるが本日引続きて初日を興行する筈、猶同一行には祖太夫も加はり居れりと

明治三十四年（一九〇二）二月十七日

『徳島毎日新聞』

○中村九太夫一座 阿波郡八幡町にて旧正月の休みを持込みて本家中村九太夫一座の操人形を興行する筈なりと

明治三十四年（一九〇二）三月八日

『徳島毎日新聞』

○源之丞一座 美馬郡脇町消防組頭長谷川長太郎は本月中旬より上村源之丞一座の操り人形を興行せんものと予てより奔走の効空しからず愈々興行に決し此三四日前より東川原に廿八間に廿一間の仮小屋建築に取りかかり前景気も至つて宜しければ開場の暁には相応に客足を引くならむと

明治三十四年（一九〇二）四月六日

『徳島毎日新聞』

○源之丞一座 美馬郡脇町に於て興行中の同一座は開場以来頗る好人氣のよしなるが今六日より蛭子島三段目竹本卷太夫、四ツ谷怪談竹本朝太夫三味線鶴澤仙之助等に替ゆとの事なり

明治三十四年（一九〇二）九月十九日

『徳島毎日新聞』

○操人形一座の当り 那賀郡富岡町登美坂座にて操人形を興行中なる上村久太夫竹本島太夫一座は中々の好人氣にて二週間以上に亘りて興行

を打ちつゞけしが昨今中に同地を打揚げ登美座か歌舞伎座にて開場の筈なりと

明治三十四年（一九〇二）十一月二十八日

『徳島毎日新聞』

△人形芝居 那賀郡新野村字重友に於る人形芝居は日々の大入りにて近来稀れる好人氣なりと

明治三十五年（一九〇二）四月十日

『徳島毎日新聞』

○上村源之丞一座の操人形は昨日より常磐座に於いて興行す

明治四十年（一九〇七）二月一日

『徳島毎日新聞』

○新富座 同座は淡路大操人形上村源之丞一座（本太夫竹本大島太夫）にて来十一日頃より開場する筈にて目下座元と交渉中

明治四十年（一九〇七）二月十九日

『徳島毎日新聞』

○新富座 同座操人形上村源之丞一座昨日よりの替狂言は前「敵討自雷也物語」大序より大詰迄、切「お染久松」野崎村（湊太夫）等なり

明治四十年（一九〇七）三月二十六日

『徳島毎日新聞』

○春日座の人形芝居 三好郡池田町の劇場春日座にては丸浦幸三郎氏請元となり来二十八日より上村源之丞一座の大操人形を招き開場の筈、追

抱大阪豊竹新呂太夫にして前景頗ぶる好しと

明治四十年（一九〇七）四月十四日

『徳島毎日新聞』

○一楽座の操人形 大道一楽座は本日より南方某操人形座乗込み開場すべしと

明治四十年（一九〇七）五月十五日

『徳島毎日新聞』

○朝日座 中村久太夫一座大操人形今十五日初日芸題に「源平布引滝」大序より大詰迄にして其役割は大序（喜代）滝壺（荒尾）清盛御殿（敦勢）義賢館（織）竹生島（君）黒助住家（綱恵）清盛御殿（巻太夫）大切（久）△中狂言「岸の姫松轡鑑三ツ目」（追抱竹本染代太夫）

明治四十年（一九〇七）五月十七日

『徳島毎日新聞』

○朝日座 中村久太夫操人形本日よりの替狂言左の如し△前絵本太功記大序（巻尾）千本幟（津名）本能寺（数勢）久吉砦（綱江）明心寺（君）杉ノ森（巻太夫）瓜献上（喜代）夕顔棚（織）大切（久）切三勝半七酒屋ノ段（追抱染代太夫）

明治四十年（一九〇七）五月二十三日

『徳島毎日新聞』

○朝日座 好評中なる同座操人形は本日より左の如く芸題を替へたり△「本朝廿四孝」大序（久）百度石之段（君）二段目（綱江）捨子之段（数勢）三段目（巻太夫）四段目（織）五段目（其）△中狂言本蔵下屋敷之

段（追抱染代太夫）△付物おしゆん伝兵衛堀川之段（小竜）

明治四十年（一九〇七）六月一日

『徳島毎日新聞』

○朝日座 既記吉田伝次郎一座大操人形は明日看板揚げ来五日頃、大入開場の筈なるが太夫は追抱祖太夫、座附真打錦太夫、スケ九十九太夫等なり

明治四十年（一九〇七）六月八日

『徳島毎日新聞』

○朝日座の大操人形 昨日大入を開場したる同座吉田伝次郎一座大操人形今初日の芸題は左の如し△前近江源氏先陣館大序より大詰まで其段割は四斗兵衛住家（松島太夫）盛綱首実検（九十九太夫）中狂言播州皿屋敷鉄山屋敷（英太夫）同古手屋八郎兵衛（錦太夫）同赤垣源蔵徳利の伝（追抱祖太夫）今回の同一座は追抱祖太夫の外錦、九十九、英等の顔揃ひなれば面白かるべしと云ふ

明治四十年（一九〇七）七月四日

『徳島毎日新聞』

○朝日座 内町朝日座の操人形吉田伝治郎一座は愈々本日限りにて打揚げ、次興行は既記の如く目下播州に開演中の尾上団十郎一座を招き来八日頃より開場の筈なるが今回は従来的一座へ更に大阪の片岡福太郎を差加へたりと

明治四十一年（一九〇八）五月十九日

『徳島毎日新聞』

○朝日座の操人形 今日よりの芸題前「一ノ谷嫩軍記」付もの「昔八丈白木座お駒」にして段割左の如し堀川御所(数) 経盛陣所(久尾) 陣門(数勢) 須磨の浦(賀寿) 流しの枝(織) 宝引(諏訪登) 熊ヶ谷物語(巻) 田五平物語(綱登) 昔八丈白木屋(国恵)

明治四十一年(一九〇八)五月二十一日

『徳島毎日新聞』

○朝日座操人形 本日よりの替芸題前「敵討自雷也物語」切「お俊伝兵衛」堀川の段伊豆名山(芳尾) 国久館(数勢) 松原(賀寿) 柳ヶ淵(久尾) 長兵衛屋敷(諏訪登) 黒姫山(巻太夫) 一ツ家(織) 鏡ヶ浦(綱登) 猿廻(国恵)

明治四十一年(一九〇八)五月二十三日

『徳島毎日新聞』

○朝日座 同座操人形本日より芸替り前「源平八島合戦」中「西国卅三所壺坂寺」にして其段割は

大序(久尾) 序切(数勢) 日の岡峠(賀寿) 能登守隠家(綱登) 堀川御所(諏訪登) 五平次住家(巻太夫) 壇の浦兜綴(芳尾) 治信陣家(織) 能登守身投(数勢) 中狂言沢市より山の段(追抱国恵太夫)

明治四十二年(一九〇九)二月二十五日

『徳島毎日新聞』

○淡路の操人形座 淡路に於ける操人形座は三原郡市村は源之丞が四座吉田伝次郎が二座久太夫、幾太夫、鹿五郎の各座都合九座にして目下幾太夫一座を残し他は皆興行に出で居る由なるが源之丞に今回更に廃座となり居れる戎家忠太夫座を買収して組織せん筈にて之にて都合十座とな

るべく尚先年丹波にて全焼せる淡路源之丞座を再興せん協議もあり片山宇三郎といふ微々たる一座を土台として成立すべき模様なり

明治四十二年(一九〇九)五月四日

『徳島毎日新聞』

○一楽座操人形 大道一楽座は明日より市村六之丞一座の操人形を開演

明治四十二年(一九〇九)五月二十六日

『徳島毎日新聞』

○朝日座操人形 今初日の芸題前「祇園祭礼信仰記」大序(島江) 室町御所(数勢) 割普請(君) 「信長傘の舞」(敷島) 上かみや(久江) 嘉平次住家(巻太夫) 金閣寺(小春) 大切(数勢) △切「三十三ヶ所壺坂寺」 沢市内より山の段まで(追抱竹本染玉太夫)

明治四十二年(一九〇九)五月二十八日

『徳島毎日新聞』

○朝日座二の替り 阿波源之丞一座操人形第二回替芸題は前「八陣守護本城」大序(島江) 南巖寺(数勢) 毒酒(君) 船場(久江) 此村屋敷(敷島) 王仙山(小春) 正清本城(巻太夫) 切「伊勢音頭」油屋の段(追抱染玉太夫) 大切「播州皿屋敷」(総掛合)

明治四十二年(一九〇九)九月十九日

『徳島毎日新聞』

△演芸▽ 糸操人形 緑館にては本日より糸操人形山本三之助一座開演、今晚の語り物左の如し

式三番叟（入登）先代萩御殿（春三咲）日吉丸三段目（三鶴）佐倉の曙義作内（愛之助）三十三間堂棟木由来（照龜）金比羅利生記志度寺（浪玉）

明治四十二年（一九〇九）十二月二十九日

『徳島毎日新聞』

○出羽太夫の再勤 竹本出羽太夫は大操人形上村源之丞一座に勤め田舎巨りをなし漸く此際帰徳滞在中なりしが来る三年一月一日より更に東京にて出勤する事となり昨夜上京せり

明治四十三年（一九一〇）二月二十日

『徳島毎日新聞』

商号登記公告

商号日本諸芸諸能冠大操人形座本 本家阿波源之丞藤原正清営業ノ種類操人形業○営業所徳島市大字堀裏町巽浜十八番地ノ二○商号使用者ノ氏名住所徳島市大字堀裏町巽浜十八番地ノ二中村幸平
右明治四十三年式月十八日登記

徳島区裁判所

明治四十三年（一九一〇）五月十三日

『徳島毎日新聞』

△春日座 大操人形阿波源之丞一座本日よりの芸題は前「絵本太功記」大序より大切まで尼ヶ崎の段（織太夫）切狂言「三勝半七」酒屋（国恵）

明治四十三年（一九一〇）六月二日

『徳島毎日新聞』

△演芸▽ 稲荷座 来五日操人形上村源之丞一座乗込、七日より大入開演、追抱豊竹新呂太夫、三味線野澤吉平、新呂は名東郡八万村の出身にて幼年の頃上京し故呂太夫門人となり斯道に精励みメキ／＼上達、今回二十年振りの帰省なれば十八番の出し物にて大に喝采を博さん意気込なる由

明治四十四年（一九一一）三月十一日

『徳島毎日新聞』

△演芸界▽ 一楽座 引続き好人気の大操人形本日よりの替芸題前「傾城大江山」酒顛童子大序より大詰まで中「摂州合邦ヶ辻」切「伊勢音頭」にして重なる太夫段割は

吉野の山（栄太）花見（浪栄）矢瀬の里（呂勢）保昌屋敷（生島）頼光館（春木）渡辺内（綱登）羅生門（呂島）土蜘蛛（島勢）山入（掛合）敵討（綱勢）△合邦（弥生）十人切（新呂）

明治四十四年（一九一一）三月十七日

『徳島毎日新聞』

△演芸界▽ 一楽座 操人形本日よりの替芸題「仮名手本忠臣蔵」大序より大詰まで其段割左の如し

鶴ヶ岡（大栄）桃井屋敷（生勢）殿中（隅呂）判官切腹（生島）二ツ玉（島勢）勘平切腹（綱登）茶屋場（総掛合）道行（掛合）由良之助 隠家（新呂）天川屋義平内（青木）勢揃（かけ合）敵討（かけ合）焼香場（大栄）

明治四十四年（一九一一）三月十九日

『徳島毎日新聞』

△一楽座 開演以来好評なりし大操人形は本日限り打揚ぐる事とせり

明治四十四年（一九一三）五月四日

『徳島毎日新聞』

△春日座 大操人形中村久太夫一座本日の大入狂言は前「一の谷嫩軍記」切「木下蔭狭間合戦」にして毎日午前七時開幕午後六時閉場大入当日は一人前木戸十一銭の均一早い者勝重なる太夫段割は
須磨の浦組討（政子）流の枝（浪登）熊谷陣家（梓太夫）△竹中官兵衛砦（伏見太夫）

明治四十四年（一九一三）六月十七日

『徳島毎日新聞』

△演芸界▽ 稲荷座 本日よりの替芸題前「蛭児島武勇問答」切「女舞衣三勝半七」にして重なる太夫役割は

六原御所（栄）三島明神（咲勢）伊藤祐近館（国見）北条時政館（桐）大相撲（掛合）工藤祐経屋敷（梶太夫）石橋山大合戦（三駒）△酒屋（追抱瑠璃太夫）

△春日座 市川駒三郎一座は明十八日大入開演△中村久太夫一座、目下撫養齋田に興行中なる大操座元阿波源之丞事中村久太夫一座は同地打揚後当市へ乗込み開演する由太夫は歳太夫及び追抱綴、国恵外数名なりと

明治四十四年（一九一三）六月二十一日

『徳島毎日新聞』

六月十一日より 稲荷座

元祖本家大操人形 吉田伝二郎一座

追抱 豊竹瑠璃太夫

三味線 野澤吉二郎

○入場料 木戸四銭 棧敷九十六銭、揚六十四銭、割十三銭敷物とも、下足壹銭

大正十一年（一九二二）六月二十日

『徳島毎日新聞』朝刊

日本演劇界の権威／本家上村源之丞／大黒組人形芝居／夜間興行は本場安来節／二十日より昼夜二回興行

日本演劇界の権威として古来より維新まで従四位下の位階を有する淡路名物人形芝居本家上村源之丞第一巡業隊大黒組一行は愈々二十日より稲荷座にて開演すべく五十有余名の人形町廻りの午前九時より開演の筈にて初日に限り半額券持参の者は二十銭にて観覧に供する由 太夫千代路は越路太夫の高弟にて関西女義太夫界の花形にて其他各太夫共斯界の名流揃ひなりと初日狂言左の如し

前狂言一の谷嫩軍記（大序より熊谷陣家の段を此段にて八十八段大道具仕掛にて御覧にいきます）

切狂言三勝半七酒屋の段

△太夫出当

堀川御所 竹本三花太夫

敦盛出陣 豊竹国登太夫

一の谷陣門 竹本三花太夫

同提灯 豊竹音恵太夫

林住家の段 豊竹久島太夫

熊谷陣家 豊竹音恵太夫／豊竹上総太夫

三勝半七／酒屋の段 竹本千代路

又夜間興行として神戸劇場総引越の本場安来節万歳諸芸競演会にて二十

日午後五時より花々しく開幕……一行の顔触れ左の如し

大正十三年（一九二四）一月二十五日

『徳島毎日新聞』朝刊

徳島倶楽間会大会／上村源之丞人形芝居

廿六日より三日間稲荷座にて

撰政宮殿下御成婚奉祝の為緒方宇鳴氏を会長とせる徳島名物素人浄瑠璃倶楽間会は御盛儀当日即ち本日廿六日午前十時より当市新栄丁稲荷座に於て本家上村源之丞人形入にて花々敷開演することに決定会員一同必死の練習と努力に狂奔しつゝあり日割及会員出演者氏名は左の通り

廿六日（初日）

累物語坂生村 敷島明昇／寿しや 福島錦照／蝶花形八 岩佐花月／鏡山長局 山本琴生／菅四 小堀千朝／鰻谷 素木常磐／布引滝 森鳴門／一の谷三 緒方宇鳴

廿七日（二日目）

日吉丸三 角木喜角／太十 林林月／お俊伝兵衛 平田宝玉／阿漕浦 原田可昇／忠六 木素福／日向島 佐野万玉／恋十 梅の家寿／忠九 長原小玉

廿八日（三日目）

赤垣出立 辻錦玉／杳掛村 島かなめ／忠四 木谷兜／菅四 桑島旭／白石（おし） 弘田達竹／伊賀八 折野寿勝／三十三間堂平太郎内 大幸文蝶／太功記十段目 福島五葉

大正十三年（一九二四）六月十八日

『徳島毎日新聞』朝刊

人気涌返る／源之丞／◇評判記

◇すばらしき前人氣を以て迎へられた本家上村源之丞大黒組の大人形は十五日新栄町稲荷座に於て花々しく開演された、天下に冠たるの称ある本家上村源之丞の一座であるだけそれだけ非常な勢ひを作して観衆殺到し来りお正午には雖もたゞぬ大入り満員であつた

◇大きな人形、此背景大道具の美麗は何と云つても此の座の特色だ、前狂言は『嫩軍記』の大物を据へた、一の谷の組打の場からは三花太夫の美声が更に美声をうみ敦盛、熊谷の人形の使ひ振は巧なもの真に人其儘の活躍で満場感嘆は至当、殊に須摩の背景は淡路を遠くに見せた最新式のものだ、

◇流しの枝は鳴島太夫、本太夫、梶太夫は熊谷陣屋は最も大時代を現し評の出来ないほどのウマサだ、人形使としても熊谷（仙吉）ふじ局（万玉）さがみ（三玉）弥太六（義三郎）で他座では見られぬ上手さだ中狂言の

◇「合邦」は追抱の女太夫三朝太夫はマ、何でこんなにウマイのだらうと観衆に片唾も呑まされぬほどな語り振天晴と申す外はない切狂言の「赤垣源蔵」は音太夫の語り物中の十八番ものだけあつてこれ亦非常な拍手をうけた

◇ことに権八の三味線は軽妙、真味は文楽座以外には聞くを得ざるの妙手で斯界の重鎮だけあつて活栓を抜き放ちたサイダーの様に沸騰するの大喝采、感嘆であつた―たしかに当興行の大成功の表徴であつたとうけとれる（麗の字）

大正十四年（一九二五）十月八日

『徳島毎日新聞』朝刊

大盛況を見せた／倶楽間会人形

慈善病院寄附倶楽間会人形大会第一日は盛況を見たが二日目の語り物

左の如し

一ノ谷三 奥津眉賀ノ太十 山本琴生軒ノ日吉丸三 小山梅寿ノお
染久松質店 加郷小要ノ菅原四 林林月ノ壺阪 大幸文蝶ノ岸姫
(大切掛合)ノおそよ朝比奈二役 緒方宇鳴ノ藤巻 大幸文蝶ノ与茂
作 山佐花月ノ飯原兵衛 佐野萬玉ノ糸 花澤咲二

昭和二年(一九二七)七月五日

『徳島毎日新聞』朝刊

日本最古人形家元ハ富座ナリノ天に二日無く上村源之丞に二座無し他は
みな偽物のみなり

当七月五月初日○毎朝八時半開幕(時間勵行)

上村源之丞略歴

人形ハ京都道薫坊ニ始マリ道薫其技ヲ以テ諸国巡遊ノ途次淡路ニ渡リ我
祖ニ其技ヲ伝ヘ引田家二十五代引田源之丞藤原正勝ニ至リ之ヲ劇トシテ
大成シ天下ニ知ラル人皇百八代後陽成帝ノ天覽ヲ賜リ左ノ綸旨ヲ賜ル
今般礮馭慮島三条道薫坊相繼引田源之丞任淡路掾禁裏節会三社神樂之式
奉捧依之從四位下叙者也ノ天氣之処如件ノ元龜元年二月ノ中院大納言執
達

其後代々從四位下ニ叙セラレ年々上洛前□相勤道中旅費官費トス中興源
之丞藤原正清操人形ヲ作り仁明帝ノ天覽ニ供シ小野篁卿ニ勅シ日本第一
冠諸芸衆能引田淡路掾藤原正清トノ門額下賜
後光明帝左ノ綸旨ヲ賜ル

己前引田淡路掾有之処任日向掾上村源之丞稱可從四位下如元依之元龜元
年中被下置候御書物大切可相心得者也ノ天氣之処如件ノ慶安四年一月ノ
中院大納言執達

徳川四代將軍家綱公御高覽ニ供ス上村源之丞行列格式家老職興業中三里

以內諸興業停止可者也ノ命アリ五七桐紋ハ先帝ノ下賜式三番叟翁面ハ後
陽成帝恩賜ニシテ稽文会ノ作也

前狂言 一ノ谷嫩軍記

切狂言 菅原伝授手習鑑ノ寺子屋ノ段

大阪文樂座出勤 竹本鶴太夫ノ□入女太夫 竹本水朝ノ□太夫 豊竹上
総太夫ノ豊竹音太夫ノ竹本水門榮ノ竹本鳴島太夫ノ豊竹国登太夫ノ豊竹
津名恵太夫ノ竹本鷹太夫ノ豊竹三花太夫ノ竹本伊織太夫

三味線 花澤咲二ノ豊澤町弥ノ鶴澤徳三郎ノ豊澤仙二ノ花澤正市

上村仙吉ノ上村儀三郎ノ上村金蔵ノ上村宇二郎ノ上村寿市ノ上村熊八ノ
上村喜市ノ上村幸玉ノ上村丑平ノ上村銀五郎ノ上村豊二郎ノ上村安夫ノ
上村音吉ノ上村不二夫ノ上村周五郎ノ上村勘市

○上村源之丞の人形は七月中開演す

新栄町稲荷座 長電話一〇六六番 直営引田興行社

昭和三年(一九二八)六月十九日

『徳島毎日新聞』朝刊

年に一度の人形芝居ノ本家上村源之丞ノ愈々二十日より稲荷座にて
本家上村源之丞人形芝居は年に一度の開演としてその日を待たれつゝある
が愈々来る二十日より新栄町稲荷座に於て花々しく開演することになつ
た、太夫は本太夫竹本高津太夫、追抱竹本出羽太夫、別入めば太夫改
め竹本楽太夫(当地出身大阪文樂座出演の花形)にして初日狂言は左の
通り

前狂言「一ノ谷嫩軍記」大序より熊谷陣屋迄△堀川御所の段(竹本三
花太夫)△経盛館の段(豊竹児島太夫)△小次郎出陣の段(豊竹津名恵太
夫)△須磨の浦組打の段(豊竹音太夫)△流の枝林住家の段(豊竹小浜太
夫)△熊谷陣屋の段(本太夫豊竹高津太夫) 此段大道具大仕掛八十八段

返し△中狂言「心中天の網島紙治の段」別入大阪文楽座出勤めばえ改め(竹本楽太夫)△切狂言「伊勢音頭油屋おこん貢大切」別入有名なる人気太夫(竹本出羽太夫)△大切狂言「宮本武勇伝大仙山の段」若手太夫掛合

昭和三年(一九二八)十一月二十一日

『徳島毎日新聞』朝刊

徳島倶楽間会／人形秋季大会

倶楽間会秋季大会を御大典を奉祝の爲め新富座に於て阿波源之丞人形入大道具立にて来る廿二日より三日間無料にて開催但下足賃五錢出演日割及び芸題語り物左の通り

△初日(廿二日) 御殿(井沢新玉)△忠九(長原古多満)△政右衛門館の段(佐野万玉)△太十(浜喜楽)△信仰記の三(川崎東玉)△岸姫(福本松鶴)△忠六(大西太勝)△玉三(下窪喜玉)
△二日目(廿三日) 城木屋(中川夏月)△質店(奈木常盤)△谷三(畑山みのる)△合邦(井後太陽)△布四(辻錦玉)△御殿(湯浅三幸)△赤垣(志摩かなめ)△お夏(弘田達竹)△二代鑑(中島梧風)
△三日目(廿四日) 菅四(小堀千朝)△腰越状(岩佐花月)△柳(堀川小美)△油屋(岩本拝生)△忠四(森本山西)△志度寺(枚岡一二三)△三勝(藤原二葉)△御殿(加郷小要)

昭和三年(一九二八)十一月二十三日

『徳島毎日新聞』朝刊

倶楽間の人形

(既報)徳島倶楽間会人形大会は廿三日正午より新富座にて開催芸題及出演者左の如し

式三番叟(入登太夫)△沼津(湊喜楽)△谷三(畑山みのる)△阿漕の浦(福本松鶴)△加賀七(湯浅三幸)△賤ヶ嶽(佐野万玉)△二代鑑(中島梧風)△菅四(小堀千朝)△御殿(加郷小要)△忠九(長原古多満)

昭和五年(一九三〇)六月十九日

『徳島毎日新聞』朝刊

いよ／＼十九日初日／人形上村源之丞／稲荷座の狂言

唯一の人形芝居本家上村源之丞一座いよ／＼十九日午前八時から稲荷座に於て初日開演芸題は左の通である(写真 別入竹本綱蔵)

一の谷嫩軍記堀川御所の段(竹本栄太夫)△経盛館の段(豊竹綱太夫)△小次郎出陣の段(竹本松島太夫)△須磨の浦組打(女太夫豊竹浜重)△流の枝林住家(女太夫竹本八千代)△熊谷陣屋の段(豊竹上総太夫)△伊勢音頭油屋お紺十人斬(竹本出羽太夫、三味豊澤権八)△切狂言先代萩御殿(大坂下り女太夫竹本綱蔵)△宮本武勇伝大仙の段(太夫総掛合)

昭和五年(一九三〇)六月二十二日

『徳島毎日新聞』朝刊

稲荷座の昼夜／人形と奇術／廿二日謝恩興行

稲荷座にては昭和五年度上半期謝恩興行として昼間は上村源之丞人形芝居を夜間は木戸無料にてジャグラー操光一行の大奇術を二十二日から開演することになった

昭和五年(一九三〇)七月八日

『徳島毎日新聞』朝刊

いよ／＼八日より出演／仮名手本忠臣蔵／稲荷座上村源之丞

連日大入満員を打続けてゐる稲荷座の本家上村源之丞人形芝居はいよ
く八日より十日迄三日間同座が最も得意とする仮名手本忠臣蔵を上演
する事になつたので一層の人氣を博するであらう

鶴ヶ岡之段(源氏太夫) △本蔵松切之段(栄太夫) △殿中之段(上尾太夫)
△塩谷判官(上屋敷之段) 本太夫上総太夫 △恩愛二つ玉之段(松島太夫)
△勘平切腹之段(女太夫浜重) △一力茶屋の段(太夫掛合) △本蔵下屋敷
之段(大阪初下り) 女太夫綱竜 △由良之助山科発足(別人出羽太夫) △天
川屋内之段(女太夫八千代) △義士勢揃敵討(義士掛合) △焼香場之段
(源氏太夫)

昭和八年(一九三三) 七月十五日

『徳島毎日新聞』朝刊

鳴門源之丞 / 十六日新富座

新富座七月十六日初日開演の人形浄瑠璃鳴門源之丞大一座は当地初めて
来演で太夫連は特別出演の女義界の巨頭竹本小仙に続いて斯界に於ける
人氣王豊竹玉之助に本太夫には竹本小梶太夫、三味線豊澤町太夫外数名
何れも幹部揃ひ毎日正午より花々敷く開演因に初日狂言左の如し

前狂言「近江源氏」大序より大詰まで(本太夫) 竹本小梶太夫(三味線)
豊澤町太郎 △中狂言「千本桜すしやの段」 竹本小仙 △次狂言「金比羅
利生記百度平住家の段」 豊竹玉之助 △大詰「肥後の駒下駄四段目」 竹
本水門栄

昭和九年(一九三四) 六月二十三日

『徳島毎日新聞』朝刊

市村六之丞 / 廿五日新富座

新富座廿五月初日開演の淡路国大人形芝居本家市村六之丞大一座は今後

毎年此の時期には是非一度は来演すると云ふ顔切り興行とて一座本太夫竹
本島太夫に別抱の竹本錦太夫の上に別入り追抱として大坂より竹本綱
竜、豊澤東童を差し加へ一座独特の早替り並に大道具大仕掛四十八段返
し等目新しい仕組に依つて充分期待に添ふべく努力すると、尚ほ一座
町廻りは前日の廿四日に行ひ翌廿五月初日時間勵行毎日午前八時半より
開幕すると

昭和九年(一九三四) 六月二十五日

『徳島毎日新聞』朝刊

本家上村源之丞 / 愈々待望の初日は廿六日 / 稲荷座の初日狂言
稲荷座で開演する本家上村源之丞人形芝居はいよ / 待望裡に廿六日午
前八時半より開演するが初日の狂言は左の如く恒例の町廻りは前日の廿
五日人形及び太夫役者参加して花々しく全市を練ることゝなつてゐる

△前狂言「有髪婿奥州秀衡」大序より大詰まで
法皇御殿の段(竹本源氏太夫) 宗盛花見の段(豊竹綱太夫) 鞍馬山の段
(豊竹音羽太夫) 遠州池田宿の段(竹本水門栄) 陸前松島宮の段(竹本
咲江) 秀衡館の段(本太夫) (豊竹上総太夫) 庄司屋敷の段(竹本三木太
夫)
△中狂言「摂州合邦ヶ辻」合邦庵の段(追抱) 水本新水朝
△切狂言「艶姿女舞衣三勝半七」酒屋の段(別人) 竹本水朝
△大喜劇「五条橋弁慶の段」太夫掛合

昭和九年(一九三四) 七月八日

『徳島毎日新聞』朝刊

上村源之丞 / 稲荷座名狂言

大人をつづけてゐる稲荷座の本家源之丞人形芝居は八日から左の十八番

狂言を上演

△前狂言「大江山酒呑童子」吉野山の段(源氏太夫)△比叡山花見の段(梅太夫)△有明御前隱家の段(咲栄)△頼光館の段(水門栄)保昌屋敷の段(上総太夫)△羅生門の段(音羽太夫)△渡辺綱館の段(三木太夫)△土蜘蛛退治の段(綱大夫)△中狂言「日吉丸 雅桜」(小牧山場内の段)(追抱)新水朝(糸)町十郎△切狂言「伊賀越道中双六」(沼津里の段)(別入)水朝(糸)町三郎△大切「山入より鬼神退治まで」掛合

昭和十年(一九三五)六月二十八日

『徳島毎日新聞』朝刊

上村源之丞／稲荷座盛況

前人氣を集めて初日を稲荷座で開演した本家上村源之丞人形芝居は待望の公演だけに素晴らしい人氣を呼んだ二の替は二十八日より左の如く上演する

△前狂言「奥秀州(うつくし)衛有髮婿」法皇御殿△友太夫△鞍馬山之段△三駒太夫△宗盛花見△綱太夫△池田宿の段△八千代△松島宮の段△吉野太夫△秀衡館之段△三笠太夫△庄司屋敷之段△三木太夫△中狂言「三十三所花の壺坂寺」追抱千代治△切狂言「昔八丈白木屋之段」別九(久)久国△大喜利「五条橋弁慶」太夫掛合

昭和十年(一九三五)七月十二日

『徳島毎日新聞』朝刊

上村源之丞／稲荷座九の替

稲荷座の上村源之丞人形芝居は連日好評九の替り狂言を十二、三両日左の如く上演する

前狂言「祇園祭礼信仰記」△「義輝遊宴」友太夫△「御殿」綱太夫△「藤

吉郎割普請」源氏太夫△「信長傘の舞」三木太夫△「上爛屋」三駒太夫△「是齋屋」三笠太夫△「金閣寺」綱大夫△「瓜先嵐」八千代△「敵討」三駒太夫△中狂言「布引滝小桜貢」千代治△切狂言「三十三所花の山壺坂寺」久国

昭和十一年(一九三六)三月十五日

『徳島毎日新聞』朝刊

源之丞人形／佐古中野劇場

本家源之丞人形芝居は来る十五日より五日間佐古中野劇場に於て開演開幕時間は正午十二時入場料三十銭上場行次第初日芸題左の如し

吉例御祝儀宝入船△竹本入登△(前)牛若丸鞍馬下奥州秀衡△宗盛館之段△竹本浪花太夫△鞍馬山之段△竹本千鳥太夫△池田宿宿屋段△豊竹弥重次△松島宮居之段△豊竹千鳴太夫△秀衡城内之段△豊竹呂島太夫△秀衡館之段△豊竹朝之助△佐藤正司館之段△豊竹呂島太夫△(中)阿波鳴門八目十郎兵衛住家之段△別入竹本玉之助△(切)京都五条橋牛若丸弁慶対面之段△太夫総掛合

昭和十一年(一九三六)七月一日

『徳島毎日新聞』朝刊

人形芝居の最高峰／本家上村源之丞／愈々七月三日より稲荷座で開演

本県劇壇の最高年中行事として一般から待望されてゐる本家上村源之丞人形芝居は恒例によりいよいよ七月三日より唯一の人形芝居の道場ともいふべき新栄町稲荷座に於て花々しく開演する事に決定した、同座は群小敷知れぬ人形座の王座を占むる権威ある大一座で操人形の草分けで現在の上村源之丞は実に五十三代といふ由緒ある伝統を誇る天下一品諸芸諸能の司で、今回の開演に当り道具太夫人形使ひに至るまで精鋭をより

すぐつた堅陣を組織して堂々と公開する事となつてゐるので従来と同座より一層光彩ある舞台を展開するものとして同好者の話題を賑はしてゐる

昭和十一年（一九三六）七月三日

『徳島毎日新聞』朝刊

愈三日から開演／本家上村源之丞／稲荷座の名狂言

愈々三日より開演する稲荷座の本家上村源之丞人形芝居は人気ますますたかまり初日の盛況さを予想されてゐるが狂言及び太夫語り場割は左の通りである

◇前狂言 奥州秀衡御星御殿の段Ⅱ竹本友太夫△宗盛御殿の段Ⅱ豊竹

綱大夫△鞍馬山の段Ⅱ竹本吉野太夫△遠州池田宿の段Ⅱ豊竹八千代

▽陸前松島の段Ⅱ豊竹三駒太夫△秀衡館の段Ⅱ竹本三笠太夫△佐藤

庄司館の段Ⅱ竹本三木太夫

◇中狂言 摂州合邦ヶ辻合邦庵の段Ⅱ大阪呂太夫同人女太夫豊竹呂調

◇切狂言 三十三所花の山壺阪寺の段Ⅱ大阪下り女太夫竹本久国

◇大喜劇 五条橋Ⅱ太夫掛合

昭和十二年（一九三七）六月二十五日

『徳島毎日新聞』朝刊

温劇人形芝居／二の替り芸題

初日以来盛況を続けつゝある温劇の小林六太夫一座の廿五日廿六日両日間二の替り狂言として公開芸題左の通り

△前狂言『玉藻の前旭の袂』大序より大切迄△班足王御殿の段（若島

太夫）△太公望魚釣の段（三河太夫）△化粧殿の段（弥恵春）△道春館

の段（豊竹上総太夫）△那須の郷重作住家の段（音太夫）

△中狂言『朝顔日記』宿屋の段（竹本三木太夫）

△次狂言『御所桜』三段目（大阪別入竹本国昇）

△切狂言『お染久松』野崎村の段（大阪別入竹本清勝）大切には景事都神泉園狐早変り

昭和十二年（一九三七）七月一日

『徳島毎日新聞』朝刊

温劇人形芝居／五ノ替り芸題

温泉劇場小林六太夫一座は七月一日より大阪女義界の大立者竹本春駒、豊澤仙平の両名を聘し熱演する

△前狂言『春の住吉仇討天下茶屋』△浮田中納言館の段Ⅱ春太夫△藪ヶ

小路の段Ⅱ若島太夫△早瀬玄番屋敷の段Ⅱ千鳥太夫△水茶屋の段Ⅱ源太

夫△安達弥助住家の段Ⅱ三河太夫△福島土手早瀬十次郎返り討の段Ⅱ豊

竹上総太夫△人形屋鶴幸右衛門内の段Ⅱ豊竹音太夫△斎藤将玄屋敷の段

Ⅱ弥恵春△住吉社内敵討の段Ⅱ太夫総掛合△中狂言『源平布引四段目』

松波檢校琵琶の段Ⅱ三木太夫△添狂言『お半長衛門帯屋の段』春駒

入場料特等五十銭、一等四十銭 二等三十銭午後五時半より活動

市村六之丞／相生座六の替り

相生座の市村六之丞の人形芝居は七月一日六の替り狂言左の如し

前狂言『妹背山女庭訓全通』△大内御所の段Ⅱ竹本春太夫△曾我大臣

館の段Ⅱ豊竹初尾太夫△太宰少司館の段Ⅱ竹本須磨太夫△芝六住家の段

Ⅱ本太夫竹本島之助、糸豊澤町広△中狂言『三十三所壺坂霊現記』△沢

市住家の段Ⅱ別入豊竹八千代△切狂言鱧七上使の段Ⅱ豊竹生駒太夫△お

みは竹雀の段Ⅱ豊竹音羽太夫

昭和十三年（一九三八）七月二日

『徳島毎日新聞』朝刊

上村源之丞／稲荷座替狂言

稲荷座の人形芝居本家上村源之丞二日、三日の九の替り芸題左の如し

△前狂言富士の巻狩□□鶴ヶ岡：栄太夫△亀ヶ谷：吉野太夫△正厳寺：
三国太夫△大磯揚屋：太夫掛合△鶴ヶ岡□□：三駒太夫△朝日奈隠家：
須磨太夫△曾我老母内：三笠太夫△一ノ宮留守居：千代子△富士の巻狩
：綱大夫△敵討：三国大夫△中狂言阿波鳴門順礼歌の段：豊竹千代治△
切狂言『伊賀越沼津の里』竹本久国

昭和十五年（一九四〇）六月二十九日

『徳島毎日新聞』朝刊

年に一度の公演／本家上村源之丞／愈七月二日稲荷座

年に一度の興行として待望されてゐる日本第一諸芸衆能の司人形元祖本
家上村源之丞一座はいよいよ七月二日(旧五月二十七日)毎日午前八時稲
荷座にて開演することになった、同座最も古き歴史と内容の完備は他の
追従を許さず同好者を始め一般に周知してゐるが更に万般の改善と人形
使太夫に至るまで強化し本太夫は関西女義太夫界で時代語りの随一と呼
ばれる竹本島之助を据え追抱には美声と艶麗な語り口で魅了する女義界
の花形竹本新水朝を配し助太夫に豊竹音太夫、竹本三河太夫、豊竹友太
夫、同小春太夫、同敷尾太夫、竹本水門栄等油の乗り切つた達者揃ひの
豪華陣で人形役者もまた一万の旗頭のみを網羅してゐるので近頃稀な人
形芝居で道に本家上村源之丞の貫禄を堂々と示したもので開場の暁には
素晴らしい人気を呼ぶであらうと予想されてゐる因に人形芝居開場中は
午後三時より映画を上映することになつてゐる

昭和十六年（一九四一）六月二十八日

『徳島毎日新聞』朝刊

伝統を誇る日本最古の人形家元は当座なり

人形芝居本家 上村源之丞

愈々二十九日初日(旧六月五日)

◇初日芸題◇

前狂言 一の谷嫩軍記／大序ヨリ大詰マデ

中狂言 摂州合邦辻 合邦庵の段／竹本新水朝出演

切狂言 宮本武勇伝 大仙山の段

昼は人形／夜は映画(午前九時開場)

竹本三国太夫／竹本三河太夫／豊竹弥生太夫／本太夫 竹本三笠太夫／

竹本梅太夫／豊竹敷島太夫／竹本水門栄／追抱 竹本新水朝

豊澤権十郎／豊澤源太郎／野澤吉三郎／豊澤春吉／豊澤源市

式三番 大石司太夫／引田日向掾／福井長太夫

上村儀三郎／上村幸市／上村清司／上村綱吉／上村品栄／上村柳生／上

村小勢夫／上村藤雄／上村司幸／上村寿玉／上村茂明

上村利玉／上村亀雄／上村菊之助／上村政之助／上村貞雄

営業主任 二木貞雄／外交主任 仲部重市

稲荷座

昭和十七年（一九四二）六月二十七日夕刊

『徳島新聞』

ヒルは人形◇ヨルは浪曲

二十八日より十五日間／ヒル十一時^{マデ}りり四時迄

本家 市村六之丞

太夫 竹本若羽太夫／竹本千代春／竹本初尾太夫／本太夫 竹本水門栄

／豊竹東太夫／豊竹綱恵太夫／豊竹弥恵春／別入女太夫 竹本千代子

三味 豊澤源市／つる澤千代次／野澤吉右衛門／つる澤又市／野澤初司
立役 市村三輪三郎／市村仲太郎／市村亀吉／市村つたゑ／市村三郎／
市村儀孝／市村駒三郎／市村次郎／市村たつゑ／市村吉之助／市村年一
／市村吉弥

立役女形連大挙来演！
開幕午后一時ヨリ一回興行
入場料 八十八銭(税別)
温泉劇場

女形 市村常夫／市村久恵／市村亀夫／市村万之助
入場料 特等八十銭(税共)／一等五十八銭(税共)
座元 豊田直太郎
温泉劇場

昭和十八年(一九四三)七月七日

『徳島新聞』朝刊

伝統を誇る日本最古の人形芝居家元は当座なり

人形芝居本家 上村源之丞

豊竹敷島太夫／豊竹弥生太夫／竹本梅太夫／本太夫 竹本三笠太夫／竹

本国栄太夫／竹本三河太夫／竹本加賀太夫／追抱 竹本新水朝

豊澤町太郎／豊澤源太夫／野澤吉太郎／豊澤源市／鶴沢徳八

人形役者 上村貞雄外二十名

当ル八日初日

時節柄東西屋は出しません

稲荷座

昭和十九年(一九四四)六月二十八日

『徳島新聞』朝刊

当ル六月廿八日より淡路国総本家人形芝居

日本／第一／冠 諸芸衆能 市村六之丞

例年おなじみの太夫総出演！

「研究科プロジェクト推進研究」成果報告書

『伝統芸能の近代化とメディア環境』

平成三十年三月三十一日発行

編集 久堀 裕朗

発行 大阪市立大学大学院文学研究科

都市文化研究センター

〒五五八―八五八五

大阪市住吉区杉本三―三―一三八

電話〇六―六六〇五―三一四

印刷 博進印刷株式会社

〒五五九―〇〇〇二

大阪市住之江区浜口東二―七―二四
